

全国大会に参加した埼玉の代表団



“元氣もらった” 第41回全国大会……大きな成功を収める。埼玉から7人が参加し、4人が発言

「不屈」本紙報道の様に、19日、20日の二日間、第41回全国大会が開かれ、埼玉からは、代議員5名(加藤会長、大野事務局長、岩田副会長、渡辺、橋本両常任理事)、評議員1名(小室(小室副会長))なお、小池副会長は中央顧問として参加し、合計7名の参加で過去最高の代表団となりました。

埼玉から4人が発言

討論では埼玉から4人が発言し積極的役割を果たしました。冒頭、沖繩に次いで2番目に登壇した大野事務局長は、この間の埼玉の会員拡大、署名の取組の教訓を格調高く報告。小室理事は「我が人生で同盟運動は一番充実した

時間だった」と同盟運動の重要性を発言し会場を沸かせました。加藤会長は、女性の会を再開し、学びながら女性たちが生き生きと拡大の先頭に立っている模様を報告。橋本常任理事は、「さいたま市南部支部」の発足の取組を熱く語りました。

夕方からの「夕食・交流会」では、参加者の最高年齢(91歳)という事で急遽埼玉の小室(小室副会長)が乾杯の音頭を取り、また、関東ブロックを代表して橋本さんがハモニカの名演奏を披露し(こ)でも埼玉の代表が活躍されました。二日目の最後に役員の選出が行われ、埼玉からは、常任理事に加藤会長と大野事務局長、理事に渡辺喜久男常任理事が選出されました。なお、今回中央常任理事を退任される岩田さんには、吉田会長から記念品が手渡され、全国大会は大きな成功を収め終了しました。



「不屈」No601 付録
埼玉版 (No429)

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
埼玉県本部

〒330-0063
さいたま市浦和区高砂
2-3-10 黒澤ビル3B
電話・Fax 048-824-0094
✉ chian2022@gmail.com
郵便振替 00110-7-83245

〈国会請願三項目〉

- ① 国は、治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- ② 国は、治安維持法犠牲者に謝罪し賠償を行うこと
- ③ 国は、治安維持法による犠牲の実態を調査し、その内容を公表すること

全国大会初参加の方の感想文です

女性達の発言に勇気もらって

会長 加藤ユリ

希望のもてる全国大会でした。採択された方針で印象に残ったのは、治安維持法百年を迎え、犠牲者がいなくなるなか、同盟の運動を若い世代にどう引き継いでいくか……、また治安維持法犠牲者への謝罪と賠償を求める根本的な課題をあらためて考えさせられる大会になりました。

発言から、女性たちの柔軟でつながりを生かした明るく元気な発言がたくさんあったことは希望が見えました。「何としても支部をなくさない、発展の力ぎは支部活動の推進」と頑張ってきた方々の思い、仲間づくりを握って離さない工夫など学ぼうのが沢山開け有意義な大会でした。

全国大会で支部の創設を報告

橋本 静修

私は、新設される「さいたま市南部支部」の事務局を担当し、支部づくりの取組みについて発言しました。県本部常任理事会での話し合いの中で、東山女性部長の「支部をつくらう」という一言で支部づくりがスタート。

(4面下段に続く)

新企画
第2回戦争を語り継ぐ
“私の戦争体験”

今回は、春日部支部の川又朋子さんの義父、川又秀雄さんが遺された「戦争体験手記」「死線を越えて」(米潜水艦の攻撃で輸送船が沈没し九死に一生を得た壮絶な戦争体験)を紹介します。

死線を越えて

川又 秀雄

〈船団で南方へ〉

私は、高専在学中の昭和19年4月に、徴兵検査を受け、体が大きく丈夫だったので甲種合格、しかも兵種は野戦銃砲隊でしたが、さらに志願して技術候補生になりました。学校は9月末に卒業し、同時に東京にある南方燃料廠に入隊しました。わずかに2週間の教育を受けただけで、汽車で広島宇品港に行き、50名ずつ2つの船に分乗して、門司港で25隻の船団を組み、目的地のスマトラに向かいました。船団が仏印(現在のベトナム)のカムラン湾の沖にさしかかった時、夜中の2時ごろです。アメリカ軍の潜水艦の魚雷攻撃を受け、2発が運悪く命中しました。

私のがぞきこんだら船の横に大きな穴が開き、そこから海水が滝のように流れ込んでいます。

〈船が沈没し海に飛び込む〉

私は泳ぎが得意ではありませんから、すぐカボックと呼ぶ植物の繊維で作った救命具を体につけ「退船!マーク!!」という命令に従い海にとびこみました。南方の海ですから入ったばかりは温かく感じました。私は袖口や襟元をひもなどで結び、上衣はズボンの中にみな押しこみバンドで固く締めて、海水が入らないように努力しました。そのうちに喉が乾いてくるし腹はへてくる。いくら喉が乾いても海の水は飲めません。南の方は幸いスコールと呼ぶ「にわか雨」が降ります。その時に空に向けて大口を開いて雨を飲み込むのですが、そんなことで大したことは呑めないで、自分の褲を外してこれを広げ、雨水をためて口に流しこむのです。あとはふんどしをすすりながら喉の渇きに耐えるのです。私たちはローブで体をつないでいますが、体は海の中なのです。だから冷え込むばかり、そこで体温を保つためにどうしたかといひますと、自分の靴を脱いでその皮を剣で削り、それを嚙んでい

るのです。一時間半ぐらい嚙んでいると、するめのようにちぎれて来て呑み込めるのです。この呑み込む作業と胃にもが入ることによって血の循環がよくなり体温が高まるというわけです。

フカを追いかう

でもそれより恐ろしいもの、それは、南の海にいるフカや海蛇です。鋭い歯をもつフカを防ぐのは赤ふんどしです。2メートル近くの赤いさらしの布で作ったふんどしを外して自分の足首に結びつけ海の中をひらひらと流すのです。フカは自分より体の長いものにはかかって来ないといいますが、その通り近くまで向って来ても噛みついては来ませんでした。海蛇は猛毒があるのでこれも大敵です。長い体で海の中を泳いでくる不気味な海蛇は、その都度棒きれで追い払うしかありませんでした。飢えと寒さと海のギャングとの戦いは、およそ12時間続きましたが、午後2時ごろ味方の海防艦に助けられ命拾いました。

(おわり)

※アメリカ軍は、日本軍輸送船の無線を傍受し解読、味方の潜水艦に連絡し、あらかじめ航行ルートで待ち伏せし輸送船を撃沈した。43年までに撃沈された日本商船は435隻であった。このため東南アジアに物資輸送が届かず、兵員輸送も困難になり、戦争の大勢を決定づけた。

熱風

この一文が読者に届く頃は、決着がついている「東京知事選」「国賠同盟」としては、新しい知事の誕生を切に願っている。と云うのも、小池都政の八年間には黙過できない問題がいくつもあるが、その一つに関東大震災での朝鮮人虐殺事件への対応がある▼1923年に発生した関東大震災の混乱の中で「朝鮮人や共産主義者が井戸に毒を入れた」や「朝鮮人が放火した」などのデマが流され、それを信じた官憲や自警団などが多数の朝鮮人や共産主義者を虐殺した事件である▼1973

(昭和48)年、美濃部革新都政の時、震災50周年を記念して「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼行事実行委員会」によって墨田区の都立横綱公園に慰霊碑が建てられ、毎年9月1日には朝鮮人犠牲者を追悼する式典が行われ、二度とこのような不幸な歴史を繰り返さないことを願い、歴代都知事は追悼文を送って来た▼しかし小池知事は「犠牲となったすべての方々に哀悼の意を表しており、個々の行事への送付は控える」として、式典に追悼文を送らなくなつて7年が経った。歴史から目を背ける都知事には退場を願いたい。(池)

埼玉県の戦前における

「社会進歩のたたかいと抵抗の歴史」

連載
第11回

日本共産党の創立と社会

運動・労働運動の高揚

大戦ブーム、深刻な戦後不況

のなかで、県内でも様々な社会運動が高揚しました。大正期(一九一〇〜二六)には、鈴木文治によつて結成された労働組合友愛会の運動は埼玉県にもおよび、一九二九(大正四)年に川口分会が、翌三〇年には大宮分会が結成されますが、労使協調・就業共済の性格を持つ同会も政府の弾圧を受け解体してしまいます。

日本共産党は一九二二(大正十一)年七月一日、わが国の進歩と革命の伝統をうけついで、日本労働者階級の前衛により創立されました。当時の日本では社会主義、共産主義の思想や運動は「犯罪」としてきびしく弾圧され、そのため戦前の共産党は支配階級、警察権力にたいし非公然的の党としてつぐられ、活動すること余儀なくされました。この時代に党の隊列に加わった埼

玉ゆかりのある人の名をあげるなら古末憲一と須永甫、卜部秀子らがいいます。

古末憲一は一九三一年、二三歳の時広島で入党、『聳ゆるマスト』で紹介される帝国海軍の中に党をつくる英雄的闘争をおこない、戦後は埼玉県党組織の幹部として闘い抜きました。須永甫は一九二八年早稲田大学で社会科学研究会、建設者同盟に参加、行田の足袋労働者の組織化に尽くし一九二八年二七歳で入党、労働運動に身を投じました。卜部秀子は一九三三年、二三歳の時京都で入党、京都の洛北診療所で無産者診療に参加しました。赤色救援会で活動していた木村豊太郎は一九三三年赤色救援会中央クラブの島海滋(埼玉県出身)から推薦され入党を決意します。また、戦前、日向和夫、大島慶一郎らは共産青年同盟に加盟しました。

1, 労働運動の高揚

大正期の後半、労働組合中央組織による県内労働者の組織化が急

速に進み、一九二四(大正一三)年には、北葛飾郡松伏村・粕壁町の醤油工場労働者により総同盟関東醸造労働組合の支部が設置され、さらに翌年六月には平方・鳩ヶ谷などの醸造労働組合と草加の大阪室素埼玉工場の組合総同盟埼玉連合会が結成されました。

東部醤油工場の争議の勝利：一九二五(大正一四)年四月二日、東部醤油

工場では突然、杜氏の石川洋三を除く一二名が解雇されます。理由は「会社創立後一カ月となったが、相次ぐ欠損で此の分では立ち行かなくなるから」との理由でした。しかし組合側は、この理由は根拠のないものと反論、争議の過程で工場側は「労働団体に加盟して居る職工を使うことは容易でないから絶対復職させない」と、みづから組合圧迫を明らかにします。解雇通告を受取った支部では、直ちに野田支部連合会に連絡する一方、争議団本部として粕壁町春田万五郎宅宛てに、委員を選んで解雇の取り消しを要求します。争議団には野田・松伏から支援応援団も駆けつけ、支部組合員は「関東醸造野田支部連合会其の他の団体の力を借りるならば持久戦は容易だ」と結束を固めます。一方工場側も、「解雇取り消しは行わない」と言明するなど争議は膠着状態になります。(次号へ続く)

同盟文芸



短歌

治維法の 謝罪求めて 請願す

ここに集うは 不屈の同志

春日部市 細谷 宣朗

うそつきで権力志向の小池知事

当選許せば日本の恥じなり

宇都宮市 宮地 さか枝

俳句

紫陽花の美しきを知るや九〇歳

春日部市 浅子 薫衣

梅雨来る田植え機動く夜明けより

行田市 大野 辰男

妻八十路謝意の旅路や青葉風

さいたま市 小池 莊市

夏が来て庭の草木も活気なし

行田市 鈴木しげる

雨上りつゆをふくんだ夏椿

行田市 鈴木 みち

川柳

ウソ百ペン本当にさせぬ党のピラ

さいたま市 小池 莊市

アメリカに手足取られた国かたち

春日部市 福家 駿吉

**さいたま市南部、上尾市で
「支部設立総会」準備進む**

既報のさいたま市南部支部(仮称)は7月15日設立総会を行います。そこでは、この度の全国大会で中央本部の事務局長に就任された永島民男氏(鴻巣市在住、東京山宣会会長)の講演を行います。

なお、上尾支部も県総会迄には、創設しようと準備を進めています。

6月の「会員拡大」は14名

全国大会成功をめざす「特別期間」の最終月、6月は14名増やし、目標の30名には5名届きませんでしたが大奮闘しました。8月の「県総会」成功に向け引き続き頑張りましょう。

第59回県本部総会の開催

日時: 8月24日(土) 13時30分
場所: 浦和コミュニティセンター

第10・11集会室

議題:

- ①2023年度活動総括
- ②2024年度活動方針
- ③決算報告と財政方針
- ④県本部役員選出
- ⑤その他

*どなたでも参加できます。参加者は事前登録が必要です

埼玉のみなさんへ「会費納入」と「夏期募金」のお願い**1、会費納入のお願い**

県本部の2023年度の決算結果は、8月の「県本部総会」で報告しますが、会費納入は、みなさんのご協力で大きく前進することができました。今年度(24年度)の会費納入は、前納を含め、既に3割近い方が納入されていますが、全会員の早めの納入をよろしく願います。

2、夏期募金をお願い

県同盟の「活動募金」は、夏季と年末の2回取り組み、県本部財政の主要な収入源になっています。物価高のなか大変心苦しい時ですが、一口一千元規模の募金にご協力下さるようお願い申し上げます。

国会請願署名推進コーナー**【個人署名】**

(310筆)

吉田 武治	川口市	33筆
藤田 悦子	ふじみの市	10筆
佐藤 礼子	上尾市	5筆
柴崎康夫	飯能市	10筆
宮地さか枝	宇都宮市	6筆
年金者組合埼玉県本部		114筆

日本共産党西部地区委員会 28筆
同 西南地区委員会 4筆
国賠同盟 岩槻支部 75筆
同 行田・羽生支部 25筆

【団体署名】

(5筆)

年金者組合越谷支部、同 富士見支部、同 三芳支部、同 桶川支部、農民運動全国連絡会、
*来年は「治安維持法制定百年」の記念の年の「国会請願」となります。署名の取組よろしく願います。

**今年の「請願行動」埼玉県
の紹介議員は8名でした**

5月15日に行った今年度の国会請願の結果ができました。埼玉県は、皆さんから寄せられた6千5百余筆の署名を埼玉県選出の国会議員に手渡ししましたが、紹介議員になって下さった方は、昨年より1名増え、次の8名の方々でした。

衆議院議員6名、立憲民主党、枝野幸男(5区)、大島敦(6区)、森田俊和(12区)、小宮山泰子、坂本祐之介(比例)、日本共産党塩川鉄也(比例)。参議院議員は、日本共産党の伊藤岳、立憲民主党高木真理の2名でした。なお、立憲民主党の大島敦氏は、今回初めて紹介議員になって下さいました。

(1面より)延べ5回の準備会を経て、いよいよ7月15日には「発足総会」開催の運びとなりました。楽しく会員の希望にそって行うをモットーにして、「今後の活動を和やかに展開しよう」と語り合っています。支部が発足したら、会員拡大と署名行動に全力を注ぎたい。そして悪政し放題の自公政権を一日も早く終わらせる力になりたいと思っています。

全国大会に参加して

岩槻支部 渡辺喜久男

私は、関東ブロック会議には何回か参加しましたが、全国大会は初めてで、北海道から沖縄までの発言が聞け、大変勉強になりました。

只、気に掛ったことを書きますと討論では会員を増やした県からは複数の発言がありました。会員を減らした県からの発言が少なくないと思われました。2万会員にするには会員を減らしている県の対策が必要です。また、決算報告では、2年連続赤字決算が心配です。繰越金が沢山あることから大きな問題になっていないようですが、ここでも会員を減らしている県の対策が必要だと感じました。

